

平成 29 年度小さな拠点・地域運営組織 近畿ブロック研修会 開催概要

(1) 全体概要

- ・ 日 時：平成 30 年 1 月 31 日（水）13:30～17:00
- ・ 会 場：ハートンホール毎日新聞ビル「サフラン 1+2」
- ・ 出席者：75 名（主に地方自治体職員が 7 割、中間支援者等 2 割、地域住民等 1 割）

(2) 近畿ブロックの特徴（他ブロックとの差別化）

- ・ 都市部と中山間地を有するため、多様な地域特性が存在。
- ・ 都市部と中山間地の双方の事例を紹介しながら、「小さな拠点・地域運営組織」をゼロから学びたい人を対象として「小さな拠点・地域運営組織」の形成の意義や効果、初動期の進め方を主テーマとした。

(3) プログラム

時間	タイトル	講師
13:30～13:35 (5 分)	開会	
13:35～14:40 (1 時間 5 分)	基調講演「「小さな拠点・地域運営組織の立ち上げの進め方」	斎藤 主税氏（(特) 都岐沙羅パートナーズセンター 理事・事務局長）
14:40～15:15 (35 分)	事例発表 「地域のまちづくりを支える八尾市の仕組みづくり～都市部の事例～」	吉川 貴代氏（八尾市役所政策企画部長）
15:15～15:50 (35 分)	事例発表 「青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会の取組み」	畑 和伸氏（名張市一般社団法人 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会 百合が丘市民センター館長）
15:50～16:05	休憩	
16:05～16:25 (20 分)	事例発表 「蒲生地区まちづくり協議会の取組み」	森島 章氏（東近江市蒲生地区まちづくり協議会 事務局長）
16:25～16:55 (30 分)	質疑応答 全体共有・総評	斎藤氏・吉川氏・畑氏・森島氏
16:55～17:00 (5 分)	閉会	

(4) 研修結果

- 1) 基調講演 講師：斎藤 主税氏（(特) 都岐沙羅パートナーズセンター 理事・事務局長）
- ・ (特) 都岐沙羅パートナーズセンターは新潟県村上地域を活動範囲とする中間支援組織であり、地域まちづくりを 18 年続けてきた。
 - ・ 地域づくりを進める上で、「ハート（人間性）→ソフト（仕組み）→ハード（物的資源）」の流れが重要であるが、各地で逆の「ハード（物的資源）→ソフト（仕組み）→ハート（人間

性)」の流れが見られ、うまくいっていないと感じる。

- ・「協働」のブームもあって組織はできていたとしても、住民の意識が、「おしつけ」であってはダメであり、行政側から言い出しにくい場合は、中間支援組織が活躍すべき。
- ・まず、自治体全体の人口減少や高齢化についてデータを用いて説明し、人口ピラミッドの推移・推計などにより、これらの問題の深刻さを理解することが重要。
- ・さらに、国勢調査小地域集計を使って、大字・〇丁目といった細かい単位で高齢者率と子供のいる世帯の割合を提示するなど、「わがごと化」の意識を持つことが重要。
- ・住民のニーズを知るために、15歳以上全員向けのアンケートを実施し、年代・性・職業別などできちんと分析し、住民に説明して理解してもらうことが重要。
- ・さらに、同じ属性の人たちを集まって、考えを話し合う機会を設ける。中間支援者は選択肢を与えるものの、決定はあくまでも地域で行うべき。
- ・まずは、やってみることが重要。小さな成功体験を徐々に膨らましていく形が望ましい。



2) 事例発表 講師：吉川 貴代氏（八尾市役所政策企画部 部長）

資料のとおり

3) 事例発表 講師：畑 和伸氏（名張市一般社団法人 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会 百合が丘市民センター館長）

資料のとおり

4) 事例発表 講師：森島 章氏（東近江市蒲生地区まちづくり協議会 事務局長）

資料のとおり

5) ワークショップ（質疑応答）

- ・隣同士で講師に尋ねたいことを議論してまとめ（10分）、発表（10分）。
- ・列挙した質問に、斎藤講師・吉川講師・畑講師・森島講師より事例を交えながら回答（20分）

■斎藤講師への質問と回答

<p>① 中高生や子育て世代のアンケートの回収率を上げる方法・工夫は？ 人材発掘もしたいが、無記名の為、良い意見が出ても任せようがない。</p>	<p>・事務局では、本音の意見を引き出す為、一人ひとり封筒に入れて回収している。こどものアンケートをとりたいた場合は、こどもの集まる場所へ行き、シールを貼ってもらう等の工夫をする。 ・また、無記名のアンケートでは、人材発掘は出来ないが、予備軍の確認にはなりうる。</p>
<p>② アンケートの統計を取るときのわけ方は？</p>	<p>・世代別：10～20代、30～40代、50代以上・男女別で統計を取ること。世代別に聞くことで、本音がわかる。</p>
<p>③ 意識の低い地域住民の対応はどうしたらよいか？</p>	<p>・意識が低い＝参加していない人のこと。 ・回覧板を過信しないこと。日中働いている人は回覧板を見ていない可能性が高いため、情報が届いていない。また一度参加すると抜け出せないというイメージ</p>

	<p>があるため、細切れに役割分担をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由は何かを突き止めること。 ・関心はあるが行けない人は、仕事していて時間がない人。その人の状況に合わせ参加できる日程で企画する。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■森島講師への質問と回答

① コミュニティセンターの事業委託を受けたメリット・デメリットは？	<ul style="list-style-type: none"> ・メリットは地域と一緒に事業ができること。
② 14地域以外のまち協はどここの地区にあるのか？ 東近江市内でも差があるのか？配置されている市役所員の仕事は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ・まち協ごとにまちづくり計画を作っているが、その際には全40集落に足を運び、説明している。 ・職員は保健師等。

■吉川講師への質問と回答

① 若手世代の参画が増えたポイントは？女性の役員は自然と誕生したのか、または仕掛けた結果なのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・まち協にはPTAの参加者が多いため、子どもが卒業しても抜けないよう、引きとめ役を担ってくれている。 ・ゆるキャラの製作を、カフェ運営を若手に任せる等、年長者から若手に世代交代し育てている。 ・女性役員は、元々町内会役員・青少年指導員だったため、元から地域からの信頼が厚い。男女共同参画社会の流れも後押ししている。
② 小学校区でのまち協の再編ポイントは？	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの混乱を防ぐ為に小学校区でのまち協を設定している。離れているところは、役員選出に工夫を凝らしたりする等、回覧物等の細やかな対応をしている。

■共通の話題への質問と回答

① 行政の立場としては、どんなサポートをしているのか？	<p>■畑講師の回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回に1回は市役所で話し合うようにしている。 <p>■森島講師の回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支所の裏にコミュニティセンターがあり、そこに各地域の担当職員がいるため、話しやすい環境である。
-----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------